

保健活動リレーエッセイ

“まちの健康支えます！”

美里町 保健師 向山照美

課を超えて課題を共有し 役割を果たせるよう支援していきたい

保健活動リレーエッセイということでお引き受けしたものの、文章を書くのは苦手ですが、エッセイって自由に意見を述べてことなので、もろもろ書いてみます。

私は、新任課長研修を受ける機会がありました。すごいインパクトのある研修会でした。その中で、グループで課題解決していくプログラムがありました。指示書を読み取り、メンバーに指示を出し、一緒に解決していくのが狙いだったのですが、指示をうまく出すことができず、時間内に課題の解決ができませんでした。指示を出す前に、自分ひとりで課題に取り組もうとしたのが失敗の原因でした。このことは、私のこれまでの独り善がりの習性が現れたものだ、大いに反省させられました。

成果を出すためには、“携わるスタッフが同じ方向を向いて、課題を共有し自分の役割を認識しながら、それぞれの責任を果たしていくことが必要”と頭では理解していたつもりでしたが、体が反応してくれませんでした。体に染み込んだ習性って、生活習慣病と一緒になかなか修正するのが難しいなっってつくづく感じました。

さてさて、そんな中、今、私の役割は何なのかな？って考えてみました。保健活動から離れて国保担当となり3年目、国保の仕組みや国保財政のこともやっとわかり、国保財政の安定化には、いかに効果的な保健活動が必要か再認識しております。このことを、保健活動を委任している健康支援係と国保担当がしっかり共有し、それぞれの役割を果たしていくことが、国保財政の安定化につながっていくものと思います。現場の保健活動と一緒に加わりたいと思うところですが、今の私の立場でできることは、課を超えて同じ課題を共有し、それぞれの役割を果たせるように指示・支援することかなと考えています。

これまでの私の習性としては苦手なことですが、私の最後の課題と思い、役割を果たしたいと思っています。



住民課保険年金係の事務職（中央が筆者）



健康窓口課健康支援係（実践活動スタッフ）

次号執筆者は人吉市の尾方文美枝保健師の予定です。